

声 明

一般社団法人・東北亜未来構想研究所（INAF）では、今般のウクライナ全土での戦争勃発の報にふれ、2022年3月2日に「INAF Emergency Workshop：ロシアのウクライナ侵攻をめぐる国際情勢」と題するワークショップを行った。

ワークショップでは冒頭、ウクライナ在住の研究者からのメッセージが紹介され、ウクライナの人々がこの5日間に経験したことについての現場からの声にふれた後、今回の戦争の背景について様々な角度から意見が出され、討論を行った。

参加者は、ウクライナ問題の正確な理解のためには、戦争に苦しんでいるウクライナの人々の気持ちと痛みを目を向けつつ、欧州の歴史や文化、民族、宗教をはじめとして、多方面にわたる知識を学んでいく必要があることを認識した。北大西洋条約機構（NATO）の東方拡大がロシアに与えている脅威感、核に関する特別の留意の必要性が指摘された。

参加者は、問題の理解のために今後も研究の蓄積と研鑽が必要であることを理解しつつ、今回の事態について、次のような声明を出すことにした。

1. 私たちは、2022年3月2日の東北亜未来構想研究所の緊急ワークショップに参加し、報告者とともに議論した。
2. 現在、ウクライナで起こっている事態にはさまざまな歴史的な経緯、国内の少数民族問題、国際的な背景があることを知る必要があるが、戦争を正当化できるものではない。
3. すべての核保有国は、核の使用および恫喝を決して行うべきではない。
4. 私たちは、あらゆる武力による問題解決が明らかに人道に反し、他国に干渉することは、国連憲章に違反するものと考えている。
5. 私たちは、多数の犠牲者と損害を生み出している今回の戦争を直ちに停止し、軍の撤退を求めると同時に、平和的な交渉による解決を願う。

2022年3月2日

INAF Emergency Workshop 参加者一同
以上